大田市埋蔵文化財調査報告　第28集

町並みと銀山　遺構確認調査概報 1

２００３年３月

島根県大田市教育委員会

例　言

1．本書は、大田市教育委員会が石見銀山遺跡の総合調査・整備事業に関連して実施した発掘調査、立会の調査概報である。

2．本書の内容は平成10年～14年度の調査結果のうち、重要文化財旧熊谷家住宅遺構確認調査、県指定阿部家遺構確認調査、電線類地中化城上神社前調査、本谷遊歩道整備関連調査について記したものである。

3．調査によって得られた図面、写真および出土品は大田市教育委員会にて管理している。

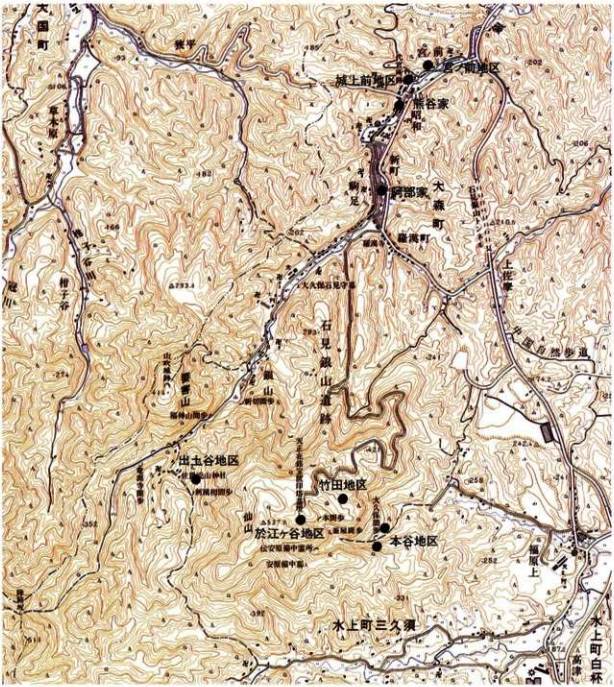
目　次

Ⅰ．重要文化財旧熊谷家住宅（E54）遺構確認調査……1

Ⅱ．県指定史跡阿部家（E16）遺構確認調査……14

Ⅲ．城上神社前の調査……21

Ⅳ．本谷遊歩道整備関連調査……26



石見銀山遺跡平面図（1：25,000）

Ⅰ 重要文化財旧熊谷家住宅(E54)
遺構確認調査

1 調査場所

大森町ハ63番地

2 調査期間

平成13年6月5日～平成13年6月15日
平成14年4月8日～平成14年5月2日
平成14年7月15日～平成14年10月4日
平成14年12月10日～平成15年2月28日

3 調査目的

重要文化財旧熊谷家住宅主屋他5棟保存修理工事にかかる遺構確認調査

4 調査面積　約420㎡

5 調査概要

旧熊谷家住宅は寛政12(1800)年の大火で焼失した後の再建といわれ、郷宿、掛屋、代官所の御用商人や町年寄をつとめた商家である。

大森銀山伝統的建造物群保存地区の建物の中で最も規模が大きく、時代の推移を示した屋敷構え等に特徴があるとされる。

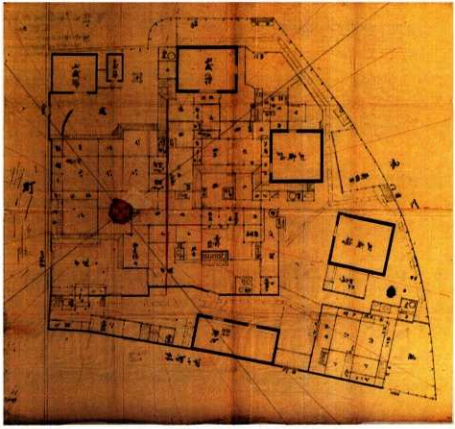
「主屋」は通りに面し、主屋北側に「北道具蔵」、その東に「小蔵」「衣裳蔵」がある。

「主屋」後方には「東道具蔵」が西面して建ち、南方には「米蔵・雑蔵」が敷地境に北面して建つ。

遺構確認調査は、下図に示した「明治五年指図」を基本に、現況で失われてしまった部分、あるいは現存する建物の下部を調査することで、復原修理に供する情報を得る目的で実施した

平成13年度には、「離れ」「土蔵」「御銀蔵小路」「米蔵・雑蔵」を調査。

平成14年度には、主屋を中心に「東道具蔵」「北道具蔵」「地下蔵」「衣装蔵」について調査を実施した。



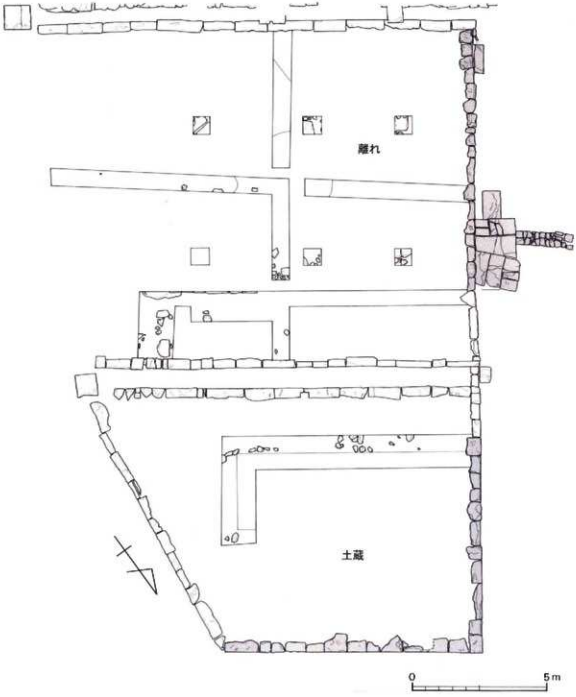
明治5年の平面図(指図)

【離れ・土蔵・御銀蔵小路】

離れ」「土蔵」は現存せず、調査着手時点では延べ石によって区画された道が中央に、左右に畑が位置していた。

調査は草木や耕作土の除去の後、トレンチを設定し掘り下げた。調査の結果、「離れ」「土蔵」について、アミの部分の石が指図に示された建物の場所と合致した。

調査前の状況



離れ・土蔵トレンチ平面図（1/100）

離れ・土蔵の石積状況

「土蔵」は指図にあるように三間×三間半の規模で北東及び南西の石列を留めていた。

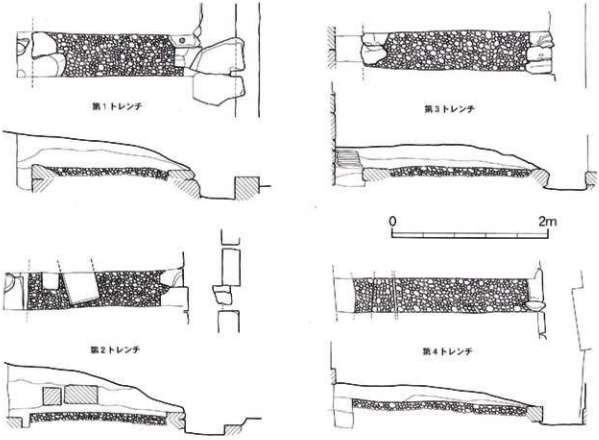
「離れ」東側の延べ石が中央のトレンチ壁面で検出され、指図の信憑性が高いことが判明した。そのため、「離れ」の礎石は、指図から適当な場所を割り出し、50cm×50cm区画のトレンチを設定し掘り下げた。結果、礎石の可能性がある板石が検出された部分が3箇所、明確に礎石を検出できなかった部分が3箇所であった。

「御銀蔵小路」は指図に「銀蔵小路」と記載されている、熊谷家住宅南側を東西に走る道である。

銀山川対岸に銀納める「御銀蔵」が位置していたことが知られており、「熊谷家」が「御銀蔵」に関わっていたことも推測できる。

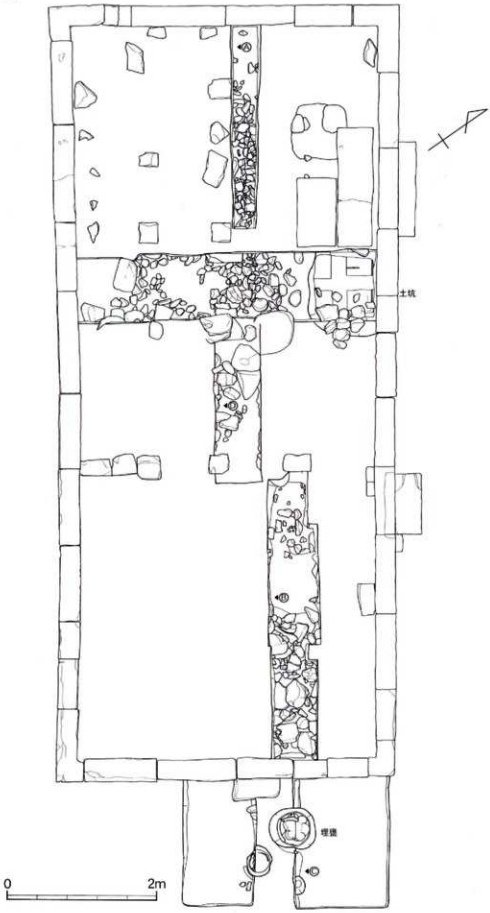
「御銀蔵小路」には、小路を横断する方向に4箇所トレンチを設定し、掘り下げた。

上層の締まりのない堆積土を除去すると、カラミや小円礫が敷き詰められた道面を検出した。また、道の両脇に石積みの側溝があることを確認した。

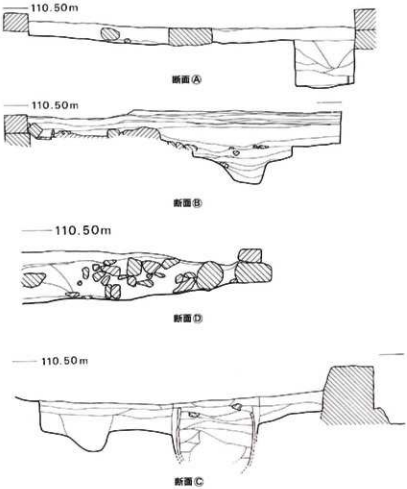


御銀蔵小路平面　断面図（1/50）

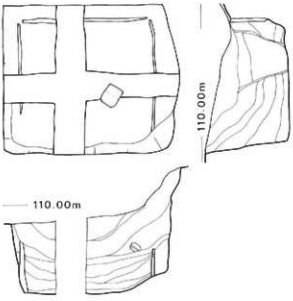
【米蔵・雑蔵】



米蔵・雑蔵平面図（1/50）



米蔵・雑蔵　土層図（1/40）



米蔵・雑蔵　土坑実測図（1/20）

「米蔵・雑蔵」は現存する旧熊谷家住宅の建物でも最古であり、寛政の大火直後の創建とされている。

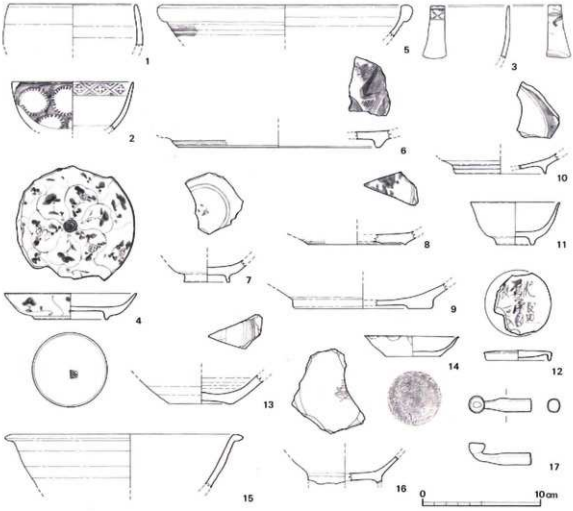
全解体修理のため、完全に上屋を除いた状態で調査を実施した。

調査の目的は、土間部分と床部分の相違また、水害による土砂の堆積や、土間の構築状況、蔵内部の地下遺構を探ることであった。

土間部分と床部分は断面図に示すように明瞭にその違いが確認された。

南北方向に設定した中央のトレンチでは蔵の基礎工事と見られるレキ敷きの状況を確認し、東側の入り口付近には木囲いの土坑を検出した。

蔵南側では、石見焼の甕、「ハンドウ」が埋置してある状態で出土した。



出土遺物実測図（1/3）

上図は、「離れ」「土蔵」「米蔵雑蔵」からの出土遺物で、江戸末～明治のものである。

12は、つまみのない磁器の蓋。16は「離れ」のトレンチ内から出土した肥前系磁器、広東碗で、18世紀末～19世紀初頭頃の製作年代である。

17のキセル雁首は、19世紀代に見られる形状を呈している。

陶磁器は、産地を特定できないものも多い。

解体に伴う調査の状況

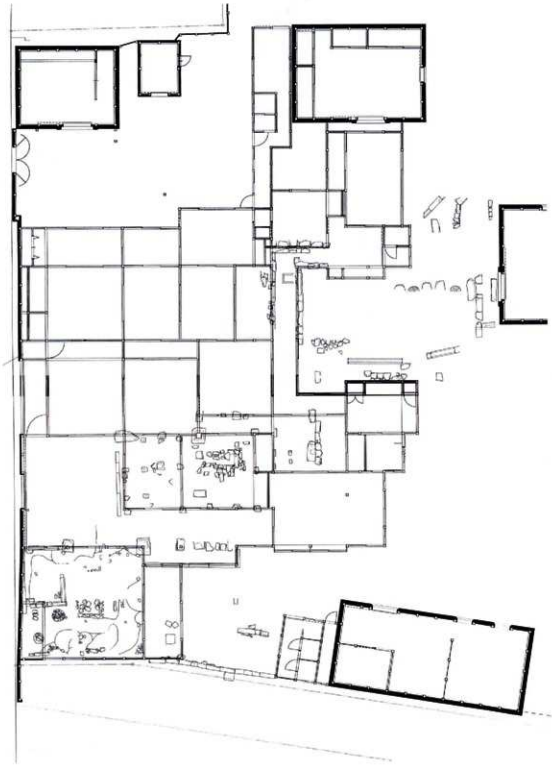
【主屋】

修理工事前の主屋全景

主屋の主屋内部

同　上

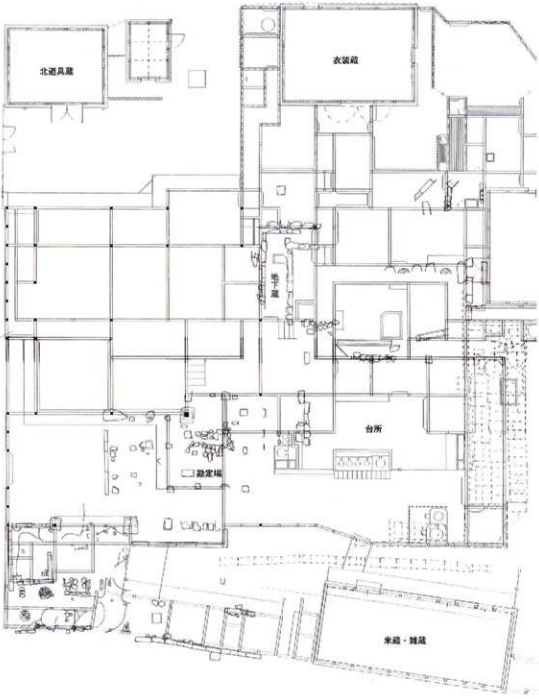
半解体修理の状況



現況の建物図と検出の遺構（1/200）

現況の建物図に主屋の調査によって検出された遺構平面を重ねた図である。

屋外の調査部分は延べ石や水路の石製樋を検出し、礎石も確認された。



明治5年の指図と検出の遺構（1/200）

検出された遺構平面に明治５年の指図を重ねた図である。現況では屋外で検出された遺構も、明治５年の遺構に合致すること明らかとなった。

台所付近など、明治5年の指図に一致しない遺構は、より古い遺構が検出された箇所である。

【作業場】

作業場遺構検出状況

礎石付近で確認された焼土層

風呂場跡

作業場周辺で確認された遺構の写真である。作業場では、明治５年の大森郵便局開設記念の陶磁器が出土している。また、指図に見える風呂場の石製樋等を検出した。

主屋の柱の下部は、入念な地業がなされており、加工形成が大まかな、大きな礎石を用いている。

作業場でも指図に表現されていない土坑を検出した。

土坑検出状況

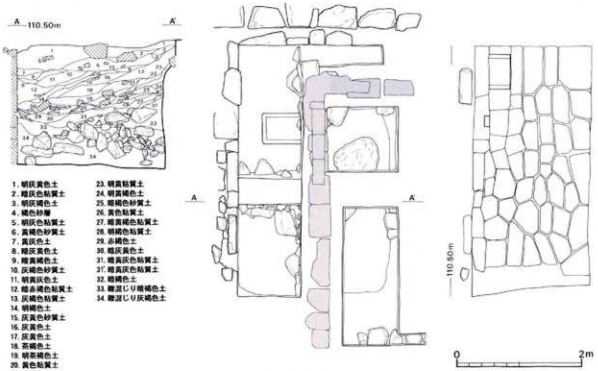
礎石・延べ石の状況

【地下蔵】

地下蔵は、切り石の堅緻積みされた中古の遺構である。深さは約2mを測る。戦後に埋め立てられ、地盤沈下していた。

南側、東側には石積みが無く、抜き取られた後に一気に埋め立てられた状況を確認した。

地下蔵の堆積状況



地下蔵実測図（1/30）

【勘定場・土間・居間】

新・旧の延べ石

左は新旧の延べ石が直交している状況の写真である。下層で検出された延べ石は、明治5年の指図上に示されておらず、それ以前に構築された可能性がある。

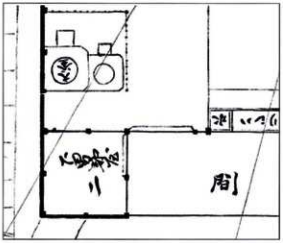
左下は勘定場他の土間の写真である。2回以上土間が構築された状況を確認した。

下は居間から地下蔵にかけての部分で炭化物の厚い堆積が検出された状況である。

勘定場の土間

炭化物の集中がみられた部分

【台所】



「大釜」の検出状況

台所下層の焼土

屋外で検出された２基のカマドである。指図と一致するが、小規模な整地や改変が数回行われていた状況が確認された。

水路は、指図に表現されていない。粘土を用いた水路跡と石製の樋の２種類が検出されている。

水路検出状況

Ⅱ 県指定史跡阿部家(E16)
遺構確認調査

1 調査場所

大森町ハ159番地1

2 調査期間

平成13年5月15日～平成13年5月17日
平成13年12月4日～平成13年12月6日
平成14年3月20日～平成14年4月24日
平成14年7月18日～平成14年8月8日

3 調査目的

県指定阿部家保存修理工事にかかる遺構確認調査

4 調査面積 50㎡

5 調査概要

阿部家は代官所から約800m南で、大森の町並みのほぼ中央に位置している武家の住宅である。

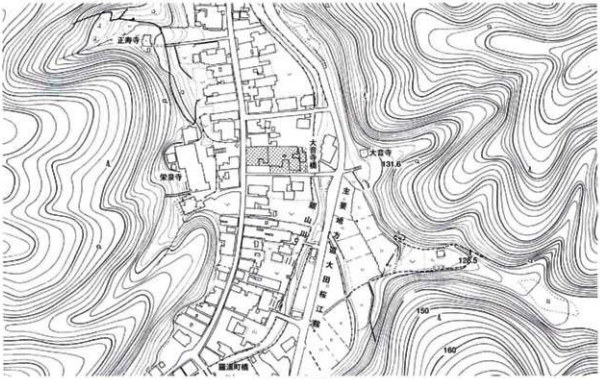
遺構確認調査は、大田市教育委員会が大田市石見銀山課から依頼され実施した。

調査は、現況の建物周辺および台所付近の清掃、若干の表土剥ぎを行い、建物調査を補足する目的で実施した。

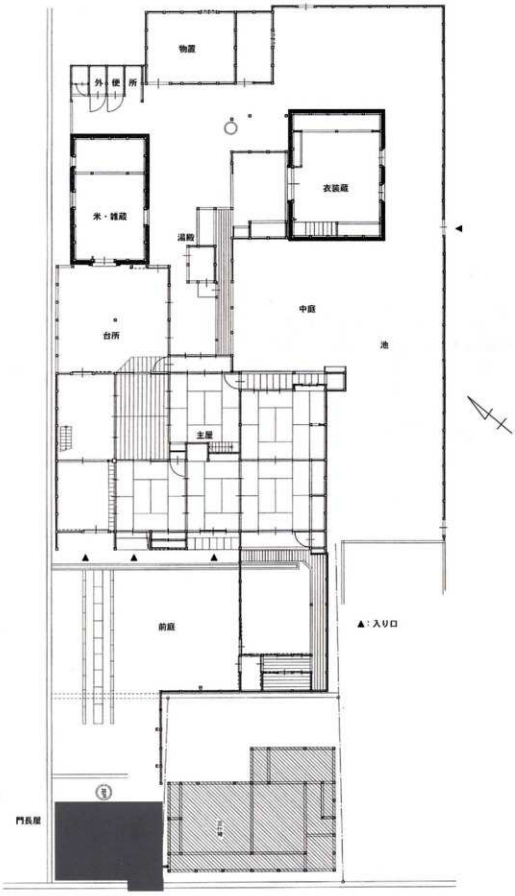
調査前全景

調査箇所は、建物内部の土間面にトレンチ4箇所、土蔵1の南西側に水道管埋設に伴い「L」字トレンチを1。土蔵2の基礎及び周辺の状況を確認するためトレンチ2箇所。

池の南西部分の確認のため「十」字トレンチを1。入り口付近では表土剥ぎの実施とトレンチ1を配した。



阿部家位置図



阿部家調査前（現況）平面図（1/150）

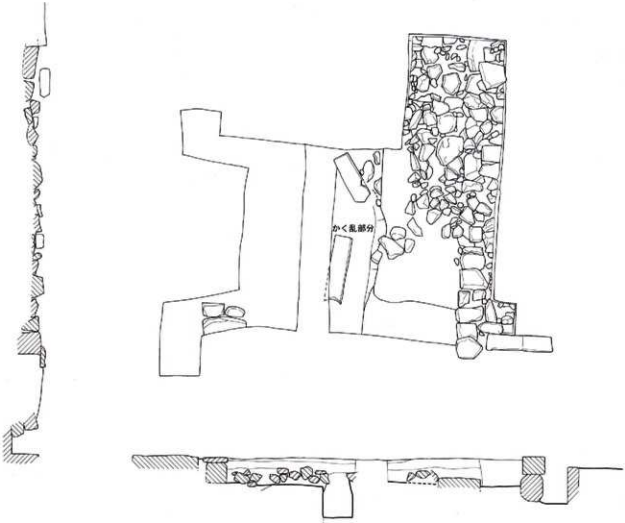
【門長屋・前庭】

道路からの入り口から前庭の部分は表土を除いた段階で、石列が検出された。石列は踏み石と水路で、建物と共に比較的新しい段階まで使用されていた。

道に面した部分は、門長屋の確認を行った。トレンチで掘り下げたところ、トレンチ中央で深さ１mの掘削痕が確認され、明確な遺構を検出することは困難であった。また、道路に伴う水路も道路改良などにより修復されていた可能性が高い。

作業風景

前庭平面図(1/75)



門長屋部分トレンチ平面図・土層図（1/50）

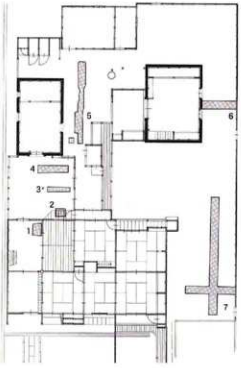
【台所・土間・蔵周辺】

トレンチ調査によって台所・土間・蔵の周辺の状況を確認した。主屋の土間から台所にかけてトレンチを４箇所設定、掘り下げた。上層で遺構検出を試みた後に下層確認の掘り下げを行った。

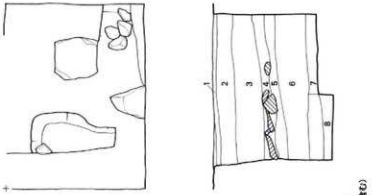
米・雑蔵では湯殿との間にトレンチを設定した。湯殿の延べ石が新しい盛り土の上に敷設されていることや、下層にごく部分的に焼土が堆積している状況を確認した。

また、米・雑蔵にかけては石積みが見られ、蔵の構築に際して地業を施した可能性が考えられた。

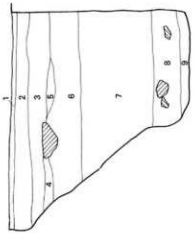
衣裳蔵の近辺にトレンチ２箇所、中庭、池に対しては「十」字のトレンチを配した。



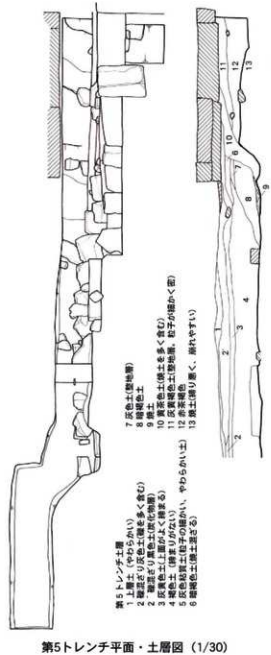
トレンチ配置図（1/250）



第1トレンチ土層図（1/25）



第3トレンチ土層図（1/25）

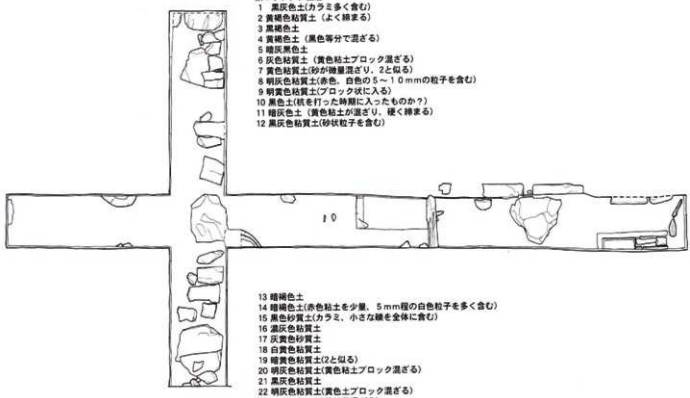


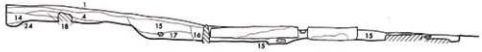
第5トレンチ平面・土層図（1/30）

台所のトレンチ土層と米・雑蔵南側のトレンチ土層図を示した。

台所付近では、下層を確認する目的で1m程度掘り下げた。いずれのトレンチも基本的な層序はほぼ同じで、現況の土間面から整地土、レキ層、整地土の順であった。遺物は小片のみであったが、下層で18世紀の製作年代を示す遺物があり、焼土面や炭化物が無いことから、いわゆる「寛政の大火」に被災していない土地履歴を確認した。

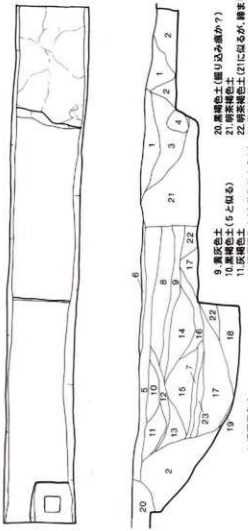
19頁の図は、池の周辺のトレンチである。近代以降の盛り土や、水路の蓋石を確認した。



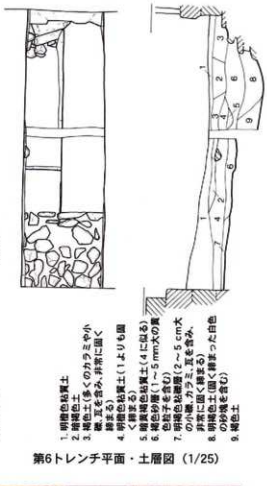


第7トレンチ平面・土層図（1/25）

【蔵周辺】



衣装蔵東側トレンチ平面・土層図（1/25）



第6トレンチ平面・土層図（1/25）

衣装蔵の周辺に配したトレンチである。蔵の基礎に伴って周辺に礫を配する地業が行われていた。

第7トレンチ

第5トレンチ

同上

Ⅲ 電線類地中化工事に伴う城上神社前の調査

1 調査場所

大森町ハ３番地２他

2 調査期間

平成11年12月15日～平成12年２月３日

3 調査目的

電線類地中化工事に伴う確認調査
（城上神社前地区）

4 調査面積　４８㎡

5 調査概要

大森代官所周辺は平成10年度に主要地方道仁摩瑞穂線の改良に伴って、電線類地中化工事が行われた。

遺構の保全を図るため、地中化管路及びボックス設置個所は工事立会を行った。

立会中に検出された遺構は、掘削が避けられない場合について、実測図作成、写真撮影の記録作業を行った。

管路で検出された遺構は石積の遺構であった。代官所周辺では、近代以降に道の嵩上げが行われており、舗装面を除去した段階から約１ｍほど盛り土が認められた。したがって、検出の石積み遺構も明治期や、近代の造作によるものがほとんどであった。

ボックス設置個所については、掘り下げが最深で３ｍを測る城上神社前において遺構面が確認され、記録保存ための調査を行った。

上層から近現代の延べ石による建物基礎を確認。記録作業の後、工事と並行で順次掘り下げた。現況路面から約１ｍ下がったところで、江戸後期の面を検出した。

現況は道路であったが、ほとんど区画を変えることなく道路面として機能していた状況を確認した。

２ｍ下がったところで道を横断する水路とそれに伴う石蓋を確認。下駄などの遺物も多数出土し、江戸初期の建物跡が検出された。礎石には柱が残り、壁体が残存していた。

さらに堆積土を除去したところ、それまでの道幅から約50㎝銀山川に寄ったところで河原石積みの溝を検出した。上面から数えて第４面となるこの遺構面や整地土からは16世紀代に遡る遺物が出土した。

出土遺物のうち、陶磁器の一部を25頁に掲載している。

調査地点から見た大森の町並み

【城上神社前】

礎石と壁土、下駄の出土状況

水路検出状況

第3面の状況

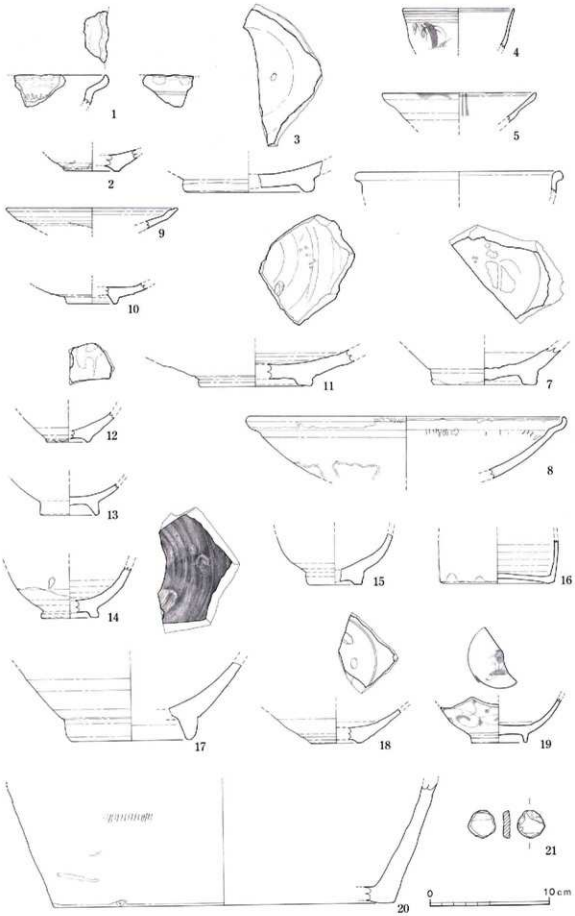
溝内遺物出土状況

水路石積の状況

第4面の状況

調査状況

第3面遺物出土状況



地中化城上前地区出土遺物実測図（1/3）

Ⅳ 本谷遊歩道整備関連調査

1 調査場所

大森町イ940番地１他

2 調査期間

平成14年６月21日～平成14年７月12日

3 調査目的

都市公園石見銀山本谷遊歩道整備に係る遺構確認調査

4 調査面積　３０㎡

5 調査概要

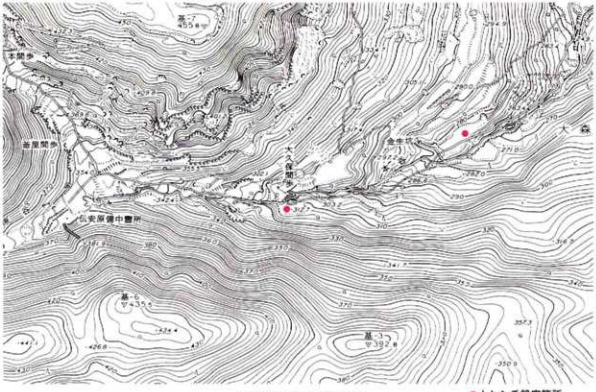
本谷遊歩道は、都市公園石見銀山公園遊歩道整備によって平成12年度から着手された整備事業である。大田市教育委員会は、大田市建設部都市計画課から事業実施にあたって、工事の立会を依頼されていた。

史跡指定地内に敷設される電気、水道管部分については、ハンドホール及び管路の立会を行い、土間面もしくは遺構面が検出された時点で、掘り下げを止めて盛り土によって被覆した。

金生坑前の調査前

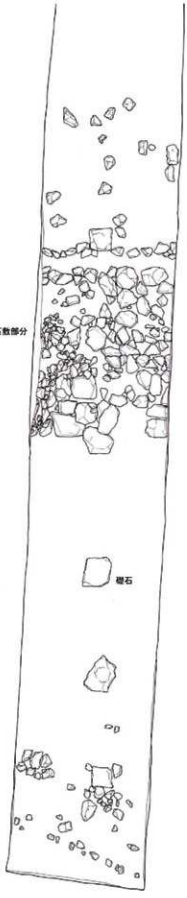
また、平坦面と現況の道を確認するためにトレンチを２箇所設定し試掘を行った。

１箇所は金生坑前平坦地に長さｍのトレンチを設定、現況の道から平坦面の状況を確認した。



本谷地区調査区位置図

●トレンチ設定箇所



金生坑前トレンチ平面図（1/50）

調査の結果、トレンチ中央に礎石列、幅2.5m程の石敷き遺構を検出した。

礎石列と石敷き遺構はほぼ同時期の遺構と見られ、周辺の溝跡や岩盤加工の状況及び出土遺物から明治期の建物跡と判断した。

また、現道は明治期の建物跡より新しい可能性が確認され、幅約90cmであった。

明治期の遺物が大半であったが、斜面からの崩落土近世初頃の唐津片なども出土し、本谷の年代開発に係る資料を得た。

もう一箇所のトレンチは大久保坑前の谷を挟んだ対岸の平坦面に2×3mで設定した。

出土遺物は、表土下約20cm掘り下げたところ土間面を検出した。遺物はほとんど明治期の遺物であり、この平坦面が明治期に利用されていた状況を確認した。

大久保間歩前の現況

金生坑前礎石検出状況

報 告 書 抄 録

ふ り が な	まちなみとぎんざん
書　　名	町 並 み と 銀 山
ふ り が な	いこうかくにんちょうさがいほう
副　書　名	遺構確認調査概報1
シリーズ・巻次	大田市埋蔵文化財調査報告28
編 著 者 名	中田健一　湯川登　岩谷和樹
編 集 機 関	大田市教育委員会
所　在　地	〒694－0064　島根県大田市大田町大田ロ1,111番地
発 行 年 月 日	2003年3月31日

所収遺跡名	所 在 地	コード		北緯	東経	調査年月日
		市町村	遺跡番号			
石見銀山遺跡	島根県大田市大森町	32205	A232 ～ 319	35° 5′ 30″	132° 26′ 30″	個別に記載

調 査 面 積	個別に記載
調 査 原 因	個別に記載

町並みと銀山

―遺構確認調査概報1―

平成15年3月31日

大田市教育委員会／島根県大田市大田町大田ロ1111